

Top Interview

— 変革に挑む —

まとも／堀水潤一 撮影／強田美央

国際基督教大学 (ICU) 学長 日比谷潤子



「英語ができないと入れない大学」 というイメージは誤解。 英語力を伸ばす大学です

ICUの学生は入学時点で全員英語が得意。「英語ができないと入れない大学」というイメージをもたれる方がいるかもしれませんが、これ必ずしもそうではないことを強調しておきたいと思います。1・2年次に集中的に英語を学ぶ従来のプログラムを改編し、今年度から、「リベラルアーツ英語プログラム」(ELA)をスタートさせました。実践的な英語力の向上と同時に、学問に取り組む姿勢を養う必修のプログラムです。4段階の能力別編成で4番めに属する学生は英語力に自信がないかもしれない。けれど他にも優れた点があるから入学が認められたわけで、むしろ基礎学力は高いということもあるでしょう。入学時点で英語が不得

意でも、本人に「伸ばしたい」という強い気持ちがあれば、ぐんと伸びますし、その層の面倒を手厚くみるのがELAの特徴の一つです。ELAで基礎を築いたのち、英語開講の科目をできるだけ多く受講してほしいと思います。

本学では卒業論文を英語で書く学生も多いのですが、自然科学系ほどの比率が高く、特に化学専攻の学生は昨年度、全員が英語で書いたほど。将来、論文を英語で書くことが多い自然科学分野の研究者にとって、英語は必須のツールです。本学には外国籍の教員が3分の1以上在籍し、自然科学を含むあらゆる分野で最低一人はノンジヤパニーズが英語で専門科目を教えています。理系志望の皆さんには、こうし

た環境にも注目してほしいと思います。もはや一つの言語だけで一生を過ごす人は少ない時代。生涯にわたり、必要に応じて複数の言語を使いこなす能力が求められます。必ずしも在学中にパーフェクトな語学力を身につけられるわけではありませんが、そうした世界の情勢に学生のうちから慣れてほしいと思います。バイリンガル環境を徹底しているのはそのためです。

本学は08年度よりメジャー制を導入しました。入学前ではなく、入学後、30あまりある分野のなかから主体的に専攻を組み立てるシステムです。ダブルメジャーや、メジャー・マイナーも含め、文理にとらわれず教養を深めていくことが可能です。文系から、いわゆる「理転」することも容易になりました。

緑あふれる広大なキャンパスで、教員とふれあい、さまざまな学問を志向する学生が集うことは本学の最大の魅力です。自分とは違う異質な人との出会いによって、あらためて自己を認識し、そのうえで新しい共存空間を創造できる人、自分が置かれている社会や文化を当然視するのではなく、未知の価値観に触れたとき、それとの対話を深め、自分の位置を再定位できる人を、これからも育みたいと思います。

【学長プロフィール】ひびや・じゅんこ●1957年生まれ。上智大学外国語学部フランス語学科卒業。同大学院外国語学研究科言語学専攻博士前期課程修了。言語学博士(ペンシルベニア大学)。慶應義塾大学国際センター助教授などを経て、2002年国際基督教大学教養学部語学科准教授。同教授、学務副学長などを経て、12年より現職。

【大学プロフィール】1949年国際基督教大学創立。53年学校法人国際基督教大学設置認可。2008年度より教養学部6学科をアーツ・サイエンス学科に改組しメジャー制を導入。現在、30あまりのメジャー(専修分野)を用意。